



社会医療法人 松藤会 広報誌
Public Relations SHOTO

Vol.80

2024 春号

まほろば

「地域にいきる」を支えます

Contents

- 3本のちくわ 地域連携室より
- 災害復興支援活動
- 糖尿病教室のお知らせ
- 表紙のおはなし

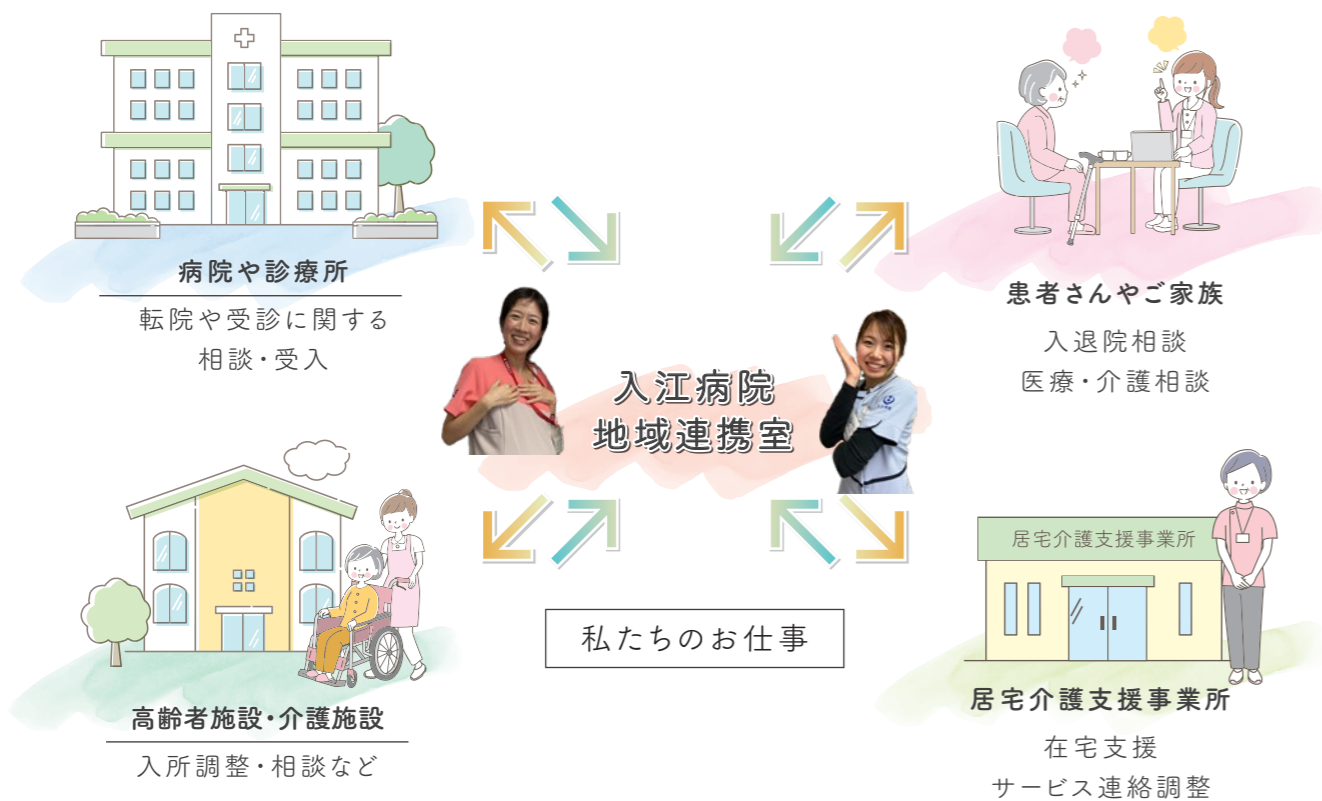


3本のちくわ

ち 地域連携室は
く 来る方に、医療・福祉サービスを
わ わかりやすく説明します



地域連携室は、患者さまとご家族のさまざまなニーズに対応するため、医療機関や介護施設との緊密な連携を通じて、入院から退院、さらには在宅復帰までの包括的な支援を行っています。私たちは、患者さまの個別の状況に合わせた最適な医療サービスを提供するため、地域の病院や診療所とも協力し、継続的な総合医療を提供する「架け橋」としての役割を果たしています。お困りのことや医学的な質問、生活上の心配事など、どんなお悩みもお気軽にご相談ください。



このようなお悩みごとの相談に応じています

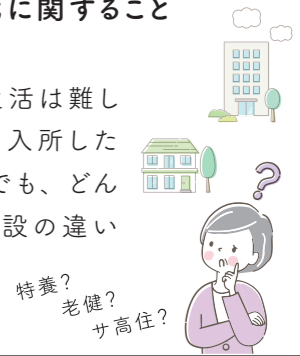
事例 1 入院費に関すること

入院中に手術を行い、入院も長期間に及んだので入院費の支払いが不安です。少しでも負担を減らすことのできる制度などはあるのでしょうか？



事例 2 退院先に関すること

退院後は自宅での生活は難しいので、介護施設に入所したいと考えています。でも、どんな施設があるか、施設の違ってもわかりません…。



事例 3 各種制度に関すること

介護保険制度や身体障害者制度などを利用して、サービスを受けたいのですが、申請方法や詳しいサービス内容がわかりません…。



事例 4 住宅改修に関すること

退院後は自宅に帰りたけれど段差や扉があるので、車いすでの生活が難しい…。改修工事をどのように手配すればよいかわかりません…。



ご相談方法について

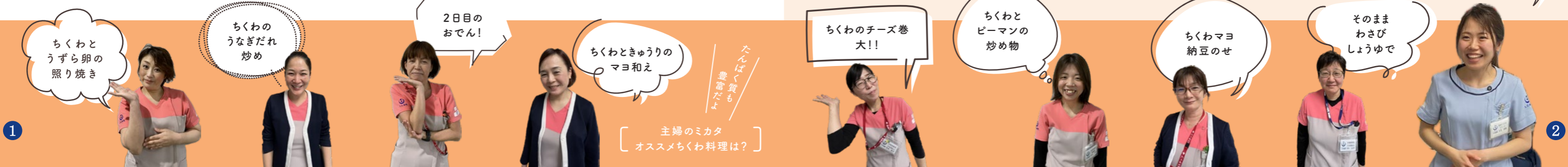
相談方法

- ご相談は地域連携室に直接お越し頂くか、お電話でも承ります。
- 入院中の方は病室へお伺いしますので、お近くのスタッフにお申し付けください。
- ご相談に関する情報は適切に保護します。
- ご相談は無料です。

相談窓口

地域連携室（1階会計窓口の奥）
電話：079-239-3121（代表）
時間：平日9時～17時／土曜9時～12時
担当：看護師、社会福祉士など

たっぷり青のり磯部揚げ



能登半島地震 復興支援活動

はじめに
令和6年1月1日に発生した能登半島地震で被災された方々に対して、心よりお見舞いを申し上げます。皆様の生活が1日も早く平穏に復することを祈り申し上げます。

Photo
名勝 白米の千枚田

この度の令和6年能登半島地震に対し、当法人より2名の職員が被災地で復興支援活動に従事しました。活動内容や被災地の状況、感じたことなどを報告します。

社会福祉施設等に対する 介護職員等の派遣

介護老人保健施設ゆめさき 中安 克仁

介護施設、高齢者の方々は大丈夫だろうか

29年前の1月、当時神戸市内にある大学に通っていた私は阪神大震災を目の当たりにしました。町は火の海と化し、人々は厳しい寒さの中での避難所生活、私たちも仮設校舎で授業を受けました。能登半島地震の速報を受けてそんな記憶が蘇り、今は介護施設で働く職員として遠い被災地の介護施設とそこで暮らす方々のことが心配になりました。地震発生から2週間が経過し、国から全国の社会福祉施設へ介護職員の派遣依頼が出されたことを知り、私は少しでも役に立ちたいという思いで被災地へ向かうことにしました。

進化している避難所の設備環境

2月3日、金沢市にある1.5次避難所、いしかわ総合スポーツセンターに入りました。ここでは介護を必要とする約200名の高齢者が避難されており、入所できる介護施設等が見つかるまでの期間生活されています。私はその日の夜から5日間、夜間のケアスタッフとして従事しました。

業務は夜間のため、トイレ誘導や翌日の薬の調整などが主となります。医療物品や介護用品は全国からの支援があったため不足している状況ではありませんでしたが、病院や施設にあるような呼出ボタン（ナースコール）はありません。常に聞き耳を立てながら、行動に注意を払う必要がありました。耳と目、経験と気付きが大切な業務であることを改めて感じさせられました。

一方で、避難所の環境は進化していると感じました。阪神大震災を思い返すと、寄せ集めたダンボールを敷き、毛布に包まって寒さを凌ぐというイメージがありましたが、ダンボールベッドに布団、空調完備で寒さを感じることはありませんで

した。介護を行う上でもベッド上で行えると介護者にとっても負担軽減になります。

また、循環式の手洗いや水の要らないポータブルトイレなども備えられており衛生面でも大きな進化を感じました。

施設での介護とは違った難しさ

被災前に自宅で過ごされていた方は、施設での介護を受けたことがないため、いわば「介護慣れ」していません。トイレに誘導する際も、施設では一緒に行って当たり前。しかし、自宅で過ごされていた方は、一緒に来てほしくないという方もおられました。安全を優先するか、人権を優先するか判断に悩みました。

また、避難所には被害の大きかった輪島市や珠洲市などから避難されている方がほとんどです。自宅や施設が倒壊し、次の入居先が見つからない状況で、入浴や食事も満足のいくものでありません。そのような方々にどのように接することが正しいのか、最後の最後まで葛藤がありました。最終日、「今日が最後なんです」と言えませんでした。避難されている方のことを思うと今でも本当につらいです。

同志と人の幸せについて考えた

避難所には介護士だけでなく、医師や看護師、栄養士など全国各地から様々な職種のスタッフが集まっています。高齢者施設に勤務するスタッフもいれば、普段は障害者施設で働いており、高齢者の介護は初めてというスタッフもいました。しかし、共通して言えることは、みんなが『熱い』ということ。「避難されている方々の幸せってなん



だろう…」、「これからの生活にどのような事が待ち受けているのだろう…」と、業務終わりに行ったサウナで熱く介護論議を交わし、『1日1回笑顔になってもらおう』という合言葉が生まれました。

最後に、私自身とても充実した5日間を過ごすことができました。現在は事務職として勤務しており、久々に現場で介護職として業務に携わりましたが、改めて介護職は人に力を与えられる素晴らしい仕事だと実感しました。ですので、介護職として働いておられる方には普段から誇りを持って働いてほしいですね。

DMAT（災害派遣医療チーム）

入江病院 高田 麗人

「避けられる死」を防ぐ DMAT

DMATは「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義されており、被災地での救急診療だけでなく、多様な機関との連携を含む災害医療のマネジメントも行います。大規模な災害時には従来の救護体制だけでは対応が不十分です。災害発生後72時間以内に最も需要が高い救命医療は、その後急速に減少します。そこで、発災直後から活動できる機動性と高い専門性を兼ね備えたDMATが重要となり、「避けられる死」の防止に寄与します。DMATのチーム構成は原則、医師1名、看護師2名、業務調整員1名（プラスαで他の専門職）で構成されています。私はこの度、姫路医療センター DMAT チームの業務調整員に臨時職員として参加しました。

// 次のページへ続く //



景色が変わった、金沢以北

能登半島地震の最大震度は7。さらに大津波警報も発令されたため、発災直後に全国のDMATに自動待機要請がかかりました。そして1週間が過ぎた1月9日、兵庫県にもDMATの派遣要請がかかりました。バックに必要物品や保存食、防寒具などと一緒に長男が作ってくれたお守りを入れ、翌10日に被災地に向けて出発しました。

初日は金沢市内まで移動し、DMAT 参集拠点病院で手続きを済ませました。翌日から本格的に支援活動が始まり、2日目は金沢大学病院で救急業務や院内診療の補助、ドクターヘリ、搬送調整などを担当、3日目は情報分析班として、石川県立中央病院で被害の大きかった地区からの搬送受け入れ調整を行いました。

そして4日目からは県北部に活動場所が変更となりました。金沢市を出発して珠洲市を目指すのですが、少し北上しただけで全く別の光景が目に見え込んできました。

古い日本家屋の多くが倒壊し、道路には無数の亀裂、至る所でがけ崩れ、落石が起こっていました。加えて、雪による視界不良で私たちの行く手を阻んでいきます。金沢市から能登町までの100km少しの移動に5時間を要しました。

寒さと同時に広がる感染症

珠洲市に到着した頃には陽が落ちかけていました。珠洲市保健医療調整本部に入り、まず与えられたミッションは寝床の確保でした。各都道府県から集まるDMAT 隊員が休める場所がないということで、開放されている勤労センターを宿舎で利

用できるように会場設営や管理体制の構築を行いました。とは言え、暖房設備もなければ、トイレは歩いて数分先の簡易トイレ、水道も使用できません。会議室に寝袋を敷くのみです。珠洲市では3日間過ごしましたが、命の危険を感じるほど寒かったです。

翌5日目は避難所で、発熱や咽頭痛を訴える方々に対するインフルエンザや新型コロナウイルスのスクリーニングを実施・補助しました。被害の大きかった地域では公衆衛生機能の復旧が進んでおらず、感染症が拡大している印象でしたので、ゾーニングや手指消毒の指導も実施しました。

今後も継続した支援が必要

6日目は本部にて各部門で行われている活動の集約や活動記録の作成を行いました。そして長いようで短かった支援活動も最終日、午前中に活動を終えて帰路につきました。

能登半島では余震が今なお続いています。現在、支援体制は急性期から慢性期への支援網に移っているところです。長期化するリスクとしては慢性疾患や認知症の悪化による家族の疲弊、公衆衛生問題などが挙げられます。これらの問題に対しては、精神医療を専門とするDPAT（災害派遣精神医療チーム）や保健師などが介入し、心のケアにあたります。

最後になりますが、今回の活動はとても過酷なものでした。しかし私たち以上に辛い生活をされている被災者の方々から、「ありがとう」と感謝の言葉を頂き、弱音を吐く気にはなれませんでした。

これからも継続した支援が必要ですが、平穏な生活に一刻も早く回復することを願っています。



英賀保公民館 教養講座 糖尿病健康教室 第14回

たかが血糖・されど血糖 ～合併症は知らないうちにそばにいる～

シリーズ3部作で開催している糖尿病健康教室は、今年2年目になります。

昨年は、「糖尿病になりやすい人・なりにくい人」をテーマに、なぜ糖尿病になるのか、糖とインスリンの流れについて詳しく説明しました。そして、インスリンの分泌量が低下する原因に生活習慣が関連していることをお話し、血糖値を上げやすい行動、上がりにくくする行動をクイズ形式で確認しました。

今年は血糖値が高い状態が続くことによるリスクについてお話しします。「たかが血糖値」と思われがちですが、血糖値が高い状

態が続くと糖尿病になり、そこから合併症など様々な弊害が引き起こされます。

血糖値が気になる方、ご家族の健康を心配される方、一緒に学びましょう。昨年参加出来なかった方も是非お越しください。

日時 5月23日(木) 13:30～
場所 英賀保公民館

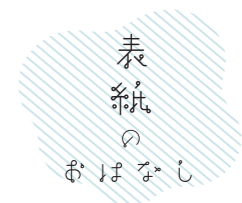
担当 入江病院 糖尿病内科 清水 匡
日本糖尿病学会専門医



老健ゆめさき とまりぎを開催しました

地域の皆さんに介護や医療を身近に感じてもらうため、年2回とまりぎを開催しています。今回は入江病院に出向き、放射線科や内視鏡室、超音波検査室など、検査に関連する部署を見学しました。

各検査の特性と入江病院の機能を理解して頂くことで、日常の健康維持や不調時の相談先として活用ほしいと思います。



地域に馴染みある木造駅舎をスケッチで

今号の表紙は、地域のシンボルとも言える英賀保駅の駅舎です。英賀保駅は大正11年に信号所として新設、13年に駅に昇格しています。建築時期は不明ですが、木造の駅舎はレトロ感が漂っています。電車の待ち時間にゆっくりと眺めてみてはいかがでしょうか。

今号も島村友紀さんのご協力により表紙を作成しました。
絵画教室のお問い合わせは
英賀保公民館 079-239-4369 まで



■ 外来診察担当表

2024年4月更新

	診療科目	月	火	水	木	金	土
午前診 9:00~12:00 (受付時間) 8:30~12:00	総合診療科		入江善				
	内科	上田/佐藤/岩谷	宰務/岩谷	上田/柴田	牧野/兒玉	宰務/佐藤	柴田/藤井
	糖尿病内科	清水	清水	清水	清水	清水	清水
	消化器外科	針生		加藤	針生	加藤	
	整形外科	平田	小田香		平田/長尾	小田香	平田
	脳神経外科	谷本	谷本	富田			谷本
	泌尿器科			白波瀬			白波瀬
午後診	糖尿病内科	清水	清水		清水		
夜診 16:00~18:00 (受付時間) 15:30~18:00	総合診療科		入江聰			入江善	
	内科	宰務	佐藤	柴田	兒玉	上田	
	消化器外科	針生		加藤			
	整形外科				平田/長尾		
	脳神経外科	谷本		富田			

- [予約制] 糖尿病内科、入江善(火曜日/総合診療科)、長尾医師(木曜日/整形外科)は予約制です。
 [休日夜間] 休日・夜間(時間外)に受診を希望される場合は、079-239-3121までお電話をお願いします。

入江病院ホームページ

診察担当表や各診療科のご案内、健康にお役立ていただける情報を掲載しています。



老健ゆめさきホームページ

施設の受け入れ体制や空室状況、その他各種イベントの情報などを掲載しています。



「地域にいきる」を支えます

急性期医療から回復期リハビリ、施設介護、そして在宅医療まで。

「安心と満足」の医療・介護で地域を支えます。

社会医療法人 松藤会

入江病院

〒672-8092 姫路市飾磨区英賀春日町2丁目25番地
 TEL.079-239-3121(代)
 併設事業所: 短時間型通所リハビリテーション
 訪問看護ステーション ゆめさき

介護老人保健施設 ゆめさき

〒671-1103 姫路市広畑区西夢前6丁目56-1
 TEL.079-237-8735(代)
 併設事業所: 居宅介護支援事業所 ゆめさき

サービス付き高齢者向け住宅 リリーフあがほ

〒672-8092 姫路市飾磨区春日町2丁目11番地
 TEL.079-238-5855

